NIE実践報告

1．タイトル：雲と天気の変化

2．学校名

埼玉県入間市立扇小学校

3．実践者名（代表者名）

武藤　貴洋

4．学年

第５学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

理科　　３７人

6．単元（本時の学習課題）名

雲と天気の変化

7．目標(狙い)

新聞やテレビ、インターネットを活用して数日間の天気のようすを調べることを通して、天気はおよそ西から東へ変化していくという規則性をとらえる。

8．評価の視点

雲の様子を観察するなど天気の変化を調べる工夫をし、新聞（気象衛星）などを活用して計画的に情報を収集しているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「雲と天気の変化」（教科書教材：啓林館）9時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①前時の振り返り　→　②問題づくり　→　③課題の把握　→
④天気の変化は何に注目すればよいか、またどんなきまりがあるか予想する
⑤話し合いをして結果をまとめる　→　⑥結果発表　→　⑦考察

（留意点）
・新聞には、さまざまな情報があり、気象情報（天気図）も掲載されていることを再確認させる。
・新聞の天気図（連続写真）の拡大３～４枚を黒板に掲示する。
・なぜ、天気図を見ると天気がわかるのか日常生活をヒントに、問題づくりをする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞の気象衛星からの天気図（雲の動き）を利用することによって、天気は、およそ西から東へ変化していくことを理解することができた。

12．成果と課題

・児童が家の新聞の天気図を切り抜き、天気図のスクラップを作ること。
・スクラップから天気の変化を考察する場面を作ること。
上記の活動を行い、理解を深めることができた。また、今後は生活との関連として、長雨や集中豪雨、台風などの気象情報から、自然災害を取り上げ、天気の変化の規則性を新聞やインターネットなどの資料を活用して予測・理解できるようにしたい。